

# 青森県内の測候所

## 1 はじめに

青森県内には、かつて 7 か所の測候所がありました。現在の八戸・むつ・深浦の 3 か所の特別地域気象観測所が以前は測候所であったことを知っている人は多いと思います。では、残りの 4 か所はどこでしょうか。

今回は、かつて、青森県内に存在した 7 か所の測候所の概要を紹介します。

## 2 測候所の変遷

### 2-1 青森測候所

青森測候所は、明治 15 (1882) 年 1 月 1 日に設置されました。創設当時は、内務省地理局の所管で、1 月 1 日から毎日 3 回の定時観測を開始しています。また、明治 20 (1887) 年 4 月 1 日に、青森県に移管となりました。その後、昭和 13 (1938) 年に全国的に県立などの測候所が国営に移管されたのに伴い、管轄が国に変更となりました。その後、昭和 32 (1957) 年 9 月 1 日に青森測候所から青森地方气象台に昇格しています。

下の写真は、昭和 25 (1950) 年頃の青森市佃の庁舎です。昭和 3 (1928) 年に、それまでの庁舎（当時の青森警察署の 2 階）から新築庁舎へ移転しています。昭和 3 年の移転時の住所は、東津軽郡浜館村大字松森字佃と、青森市外でしたが、引き続き、「青森測候所」を名乗っていました。



写真 1 昭和 25 年頃の佃庁舎

また、昭和 14 (1939) 年には青森市油川に移転（それまでの佃庁舎は、佃臨時出張所として観測は継続）しました。油川への移転は、当時、油川に青森飛行場が開設されたことが一つの要因と言われています。油川と佃の 2 か所に分かれて観測を行っていましたが、昭

和 31 (1956) 年には、元の佃庁舎へ移転しました。



写真 2 青森測候所（油川庁舎）（撮影時期不明）

その後、平成元（1989）年に、現在の気象台のある花園一丁目へ移転を行いました。この移転は、佃庁舎の位置に新しく道路を作るための立ち退きとのことでしたが、その後、道路は建設されず、佃庁舎の跡地は公園（つくだウェザーパーク）となっています。

## 2-2 八戸測候所

八戸測候所は、東北地方の冷害対策施設の一つとして、八戸地方の気象、地震、潮汐、海水温などを観測し、東北地方の凶作の来否と地震・津波の襲来を予測する資料を集めるためとして、昭和 11（1936）年 7 月 15 日に開設されました。この時期には、昭和 6（1931）年・9（1934）年・10（1935）年と冷害が続き、東北地方の凶冷に関する研究の必要性が認識されるようになっており、田名部測候所（後の、むつ測候所）、岩手山測候所、八戸測候所などが、相次いで創設されています。また、昭和 8（1933）年の昭和三陸地震津波も、東北地方の沿岸部に相次いで測候所が創設される契機となっています。

青森測候所は、国立で設立されたのち、青森県へ所管変更され、その後再び国立へと、所管が変更されていますが、八戸測候所は、国立の測候所として設立され、その後も、県立には移管されずに、国立のまま経過します。また、八戸測候所の特筆すべき特色は、小型とはいえ、海洋観測のための観測船（親潮丸）が配備され、八戸沖の海水温の観測を行い、やませの予測に役立てようとする取り組みが行われたことです。

平成 19（2007）年に測候所から特別地域気象観測所に変更となりました。その後、測候所の庁舎は八戸市によって改装され、八戸市みなと体験学習館（みなっ知）として震災や街の歴史について学べる、青森唯一の震災伝承施設となっています。

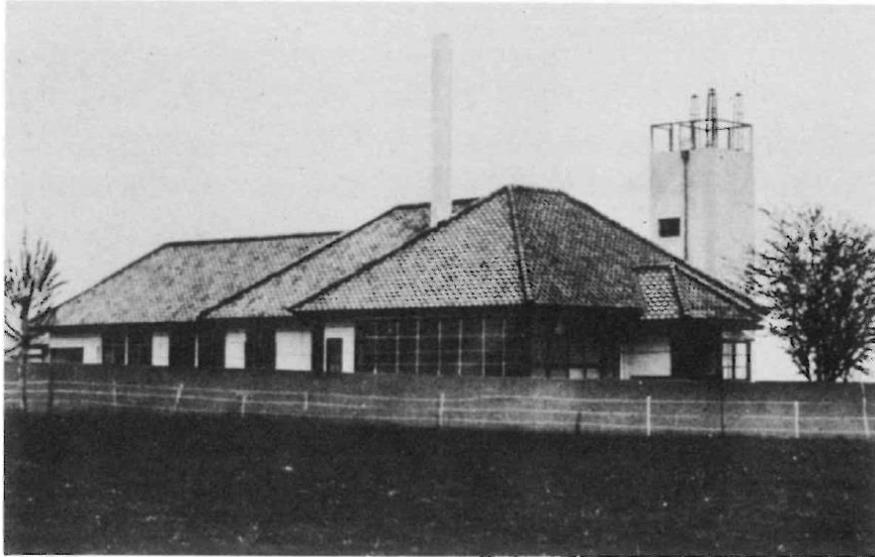


写真 3 創設当時の八戸測候所（昭和 11 年 7 月）



写真 4 親潮丸（昭和 11 年 7 月）

### 2-3 むつ測候所

むつ測候所は、昭和 9（1934）年 11 月 21 日に青森県立の青森測候所田名部支所として設立され、昭和 10（1935）年 1 月 1 日に業務を開始しました。

八戸測候所の項目で触れたように、昭和 10 年前後は、昭和 6（1931）年・9（1934）年・10（1935）年と冷害が続き、東北地方の凶冷に関する研究の必要性が認識されるようになっていました。そのような状況において、東北地方の冷害対策のために、青森測候所田名部支所として気象観測所が設置されることとなりました。

その後、中央气象台青森測候所田名部分室（昭和 13（1938）年 7 月 15 日）、中央气象台田名部臨時出張所（昭和 14（1939）年 11 月 1 日）、青森測候所田名部分室（昭和 16（1941）

年 4 月 1 日)、大湊測候所田名部分室(昭和 21(1946)年 3 月 13 日)と名称が目まぐるしく変わり、最終的に昭和 22(1947)年 4 月 30 日に田名部測候所となり、昭和 45(1970)年 4 月 17 日に、むつ測候所と改称されました。

青森測候所の支所・分室であったため、当初は青森県の所管でしたが、青森測候所の国立への移管とともに所管が国に変更となりました。また、むつ測候所の特色としては、太平洋戦争の開始 2 か月前の昭和 16(1941)年 9 月に気象観測業務を中断したことです。大湊に旧海軍要港部があったこと、戦時中の気象管制の影響と言われています。

平成 10(1998)年に測候所から特別地域気象観測所に変更となりました。

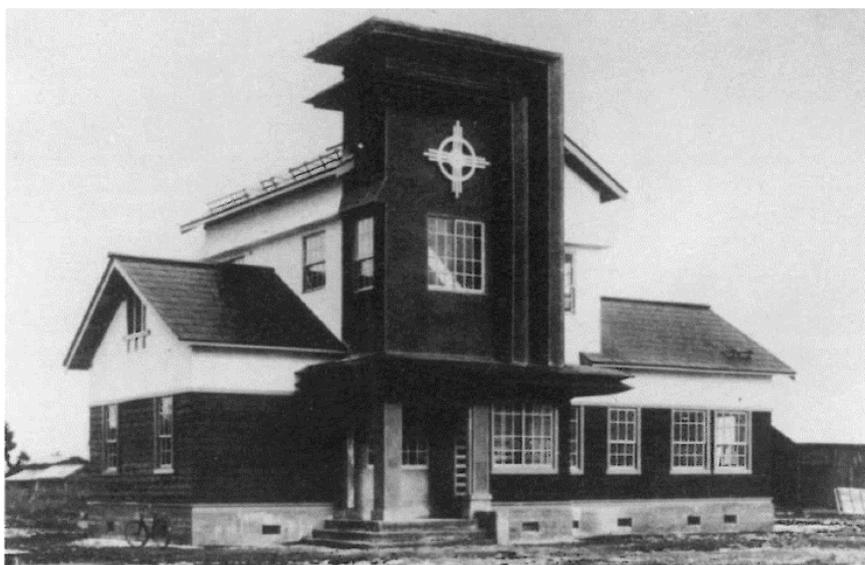


写真 5 創立当時のむつ測候所(当時の青森測候所田名部支所)(撮影時期不明)

#### 2-4 大湊測候所

大湊測候所は、第二次世界大戦終結後の復員船に対する気象協力を目的に、旧海軍大湊警備府気象観測所の施設と人員が中央气象台に移管され、昭和 21(1946)年 3 月 1 日に八戸測候所大湊臨時出張所として開設されました。当初は八戸測候所大湊臨時出張所でしたが、同年 3 月 13 日には大湊測候所が併置され、同年 10 月 1 日には八戸測候所大湊臨時出張所が廃止され、大湊測候所のみとなりました。また、昭和 22(1947)年 4 月 30 日に大湊測候所は、設立からわずか 1 年余りで廃止となりました。

なお、大湊測候所廃止とともに、大湊測候所田名部分室が田名部測候所となっています。

#### 2-5 深浦測候所

深浦測候所は、昭和 14(1939)年 1 月 1 日に国立の深浦観測所として開設されました。昭和 25(1950)年 6 月 1 日には、深浦測候所に昇格しました。創設の経緯として、軍事、交通、産業等の諸見地より重要性が大であること、日本海における冬季に大陸から東進してくる低気圧等の観測に重要な位置であることが理由としてあげられています。また、当時の

新聞記事などでは、鱒ヶ沢町と深浦町で、気象観測所の誘致合戦が行われたようです。  
平成 16（2004）年に測候所から特別地域気象観測所に変更となりました。

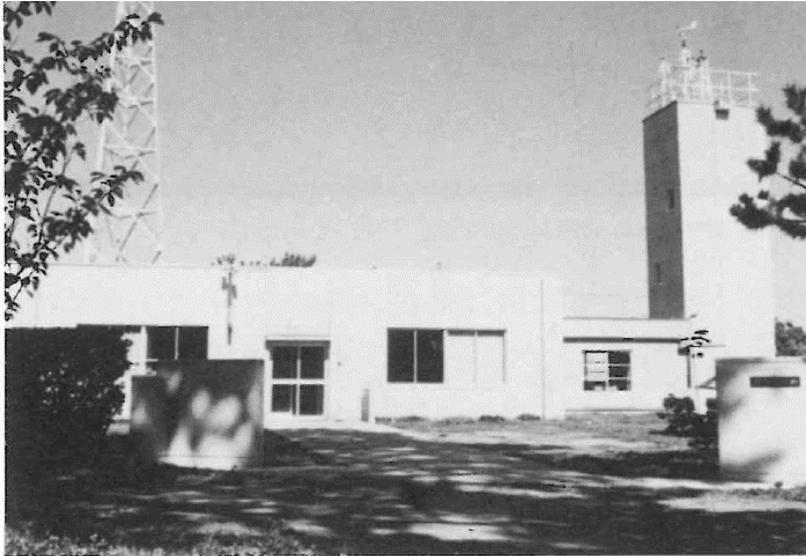


写真 6 深浦測候所（昭和 62 年頃）

## 2-6 三沢航空測候所

三沢航空測候所は、昭和 27（1952）年 3 月 1 日に開設されました。昭和 26（1951）年 8 月に国内の民間航空事業が再開され、日本航空株式会社による国内定期運航が開始されました。翌昭和 27（1952）年 1 月には東京－札幌便が三沢空港に寄航を開始したため、この航空機へ気象情報を援助することが、航空測候所の開設理由です。

昭和 40（1965）年 4 月 1 日には、航空測候所から空港分室に組織が変更となり、さらに空港出張所に名称が変更、昭和 43（1968）年 4 月 17 日に廃止となりました。その後、昭和 58（1983）年 10 月 1 日に再び三沢空港出張所が開設されましたが、平成 20（2008）年 4 月に廃止され、三沢空港気象連絡室が設置されました。



写真 7 三沢空港出張所（昭和 62 年頃）

## 2-7 碓ヶ関森林測候所

最後に紹介する碓ヶ関森林測候所は、農商務省山林局が明治から大正の時期に設置した森林測候所です。森林測候所は、明治時代末(1907年～1910年)に全国各地で発生した大水害への対策として、第1期治水事業(1911年～)において、農商務省山林局(現農林水産省林野庁)が中央气象台(現気象庁)の協力で設置した測候所で、業務は林業試験場が担っていました。当時の气象台や測候所などの気象観測所は主に沿岸部にあった一方、洪水などの水害対策のためには中山間地域において気象観測を行うことが必要であり、そのために森林測候所が設置されました。碓ヶ関森林測候所は、大正6(1917)年に設置され、廃止は大正13(1924)年とわずか7年のみの設置でした。

なお、碓ヶ関では、森林測候所による気象観測以外に、青森測候所が役場や小学校への委託による観測(委託観測)を明治41(1908)年に開始しています。委託観測所は、その後、昭和52(1977)年にアメダス(地域気象観測所)として自動観測に切り替わり、現在も観測を継続しています。

## 3 青森県内の測候所数

青森県内にかつて存在した7か所の測候所は、全てが同時に存在したことはありません。測候所数が最も多かったのは、昭和27年から昭和32年まで5年間の5か所(青森測候所・八戸測候所・田名部測候所・深浦測候所・三沢航空測候所)の時代となります。また、昭和32年以降は、青森測候所が青森地方气象台となったため、測候所数は4に減少し、さらに、昭和40年には三沢航空測候所が廃止となり、測候所数は3となりました。なお、弘前には昭和32(1957)年から昭和57(1982)年まで、弘前気象通報所が設置されていました。

## 4 おわりに

廃止となった測候所等についても、特別地域気象観測者や地域気象観測所(アメダス)として観測は継続し、観測値は、青森県内の気象災害の防止、気候変動の監視などに利用されています。最新の観測データ、過去の観測データのどちらも、気象庁ホームページで公開していますので、有効活用していただければ幸いです。

## 参考資料

- 青森地方气象台(1986): 青森の気象百年
- 八戸測候所(1988): 八戸の気象50年 八戸測候所50年史と三八上北地方の気候
- むつ測候所(1986): 下北の気象50年 むつ測候所50年史
- 農林省林業試験場(1960): 第一期治水事業の森林測候所
- 森林総合研究所十日町試験地の所属組織

青森県内の測候所等（分室・出張所等の時期を含む）の開設・廃止

	青森	八戸	むつ	大湊	深浦	三沢	碓ヶ関	弘前
1880 年代	1882 年							
1890 年代	↓							
1900 年代	↓							
1910 年代	↓						1917 年	
1920 年代	↓						1924 年	
1930 年代	↓		1934 年					
	↓	1936 年	↓					
	↓	↓	↓		1939 年			
1940 年代	↓	↓	↓		↓			
	↓	↓	↓	1946 年	↓			
	↓	↓	↓	1947 年	↓			
	↓	↓	↓		↓			
1950 年代	↓	↓	↓		↓	1952 年		
	1957 年 気象台	↓	↓		↓	↓		1957 年
1960 年代	↓	↓	↓		↓	1968 年		↓
1970 年代	↓	↓	↓		↓			↓
1980 年代	↓	↓	↓		↓	1983 年		1982 年
1990 年代	↓	↓	1998 年		↓	↓		
2000 年代	↓	↓			2004 年	↓		
	↓	2007 年				↓		
	↓					2008 年		
2010 年代	↓							
2020 年代	↓							
現在	気象台	特地	特地		特地			アメダス

青森県内の測候所等（観測所・分室・出張所と弘前気象通報所を含む）の設立と廃止時期。測候所等が設置されている期間は背景を橙色とした。

現在、八戸・むつ・深浦は、特別地域気象観測所として観測を継続、弘前は地域気象観測所（アメダス）として観測を継続。碓ヶ関は、森林測候所とは別に青森測候所の委託観測が 1908 年に開始され、現在は地域気象観測所（アメダス）として観測を継続。

（この原稿の作成 観測予報管理官 安藤）



国土交通省

国土交通省 気象庁 青森地方气象台  
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号  
電話017-741-7411



気象庁

気象庁ホームページ: <https://www.jma.go.jp>  
青森地方气象台ホームページ: <https://www.jma-net.go.jp/aomori/>